東京バッハ合唱団 月報

［第 755 号］2025 年 5 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604
Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp

BACH-CHOR TOKYO
Monthly Newsletter No.755
May 2025
—
5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

第 123 回定期演奏会へのお誘い

苦悩からの解放、そして生命の躍動

定期演奏会が迫りました。
上演曲目は以下のとおりです（上演順）。

- **カンタータ第 34 番《おお永遠の火よ おお愛の源よ》**
  O ewiges Feuer, o Ursprung der Liebe BWV 34
- **カンタータ第 23 番《主なる神 ダビデの子》**
  Du wahrer Gott und Davids Sohn BWV 23
- **《マニフィカト わが心主をあがむ》(マリアの讃歌)**
  Magnificat D-Dur BWV 243

プログラム構成は、曲調、調性、楽器編成などを吟味して、上記のステージとしました。両端の 2 曲は、エネルギーに溢れた、バッハの喜びの表現そのものです。あいだに挟んだ第 23 番のカンタータの静謐が、ことのほか効果を発揮する、充実した選曲になったのではないでしょうか。

また、先月号でご案内したとおり、このステージは主宰者・大村恵美子の最後の本番指揮となります。心に残る演奏会が実現できますよう、客席からもみなさまの熱い想いをお寄せいただければ幸いです。

東京バッハ合唱団 第 123 回定期演奏会
― 日本語演奏・大村恵美子訳詞 ―

カンタータ第34 番《おお永遠の火よ おお愛の源よ》
カンタータ第23 番《主なる神 ダビデの子》
《マニフィカト わが心 主をあがむ》ニ長調

・5 月 31 日（土）日本キリスト教団 荻窪教会（60 席）
（JR 中央線/地下鉄「荻窪駅」南口 8 分、杉並区荻窪 4-2-10）

・6 月 7 日（土）日本キリスト教団 三崎町教会（250 席）
（JR 総武線「水道橋駅」東口 3 分、千代田区神田三崎町 1-3-9）

＜両日とも同内容、**14 時開演**（開場 30 分前）＞

ソプラノ 藤原優花、ソプラノ 前田ひより、アルト 中島麻紀子
テノール 野中裕太、バス 及川泰生
管弦楽 コレギウム･アルモニア･スペリオーレ･ジャパン（ＡＲＳ）
オルガン 田尻明葉、合唱 東京バッハ合唱団
指揮 大村恵美子

◆入場無料（お申し込み不要、直接ご来場ください）
◆後援会/団友のみなさまには、予めご一報いただければ、お席を確保いたします。
◆主催（問い合わせ）：東京バッハ合唱団
電話 03-3290-5731、メール office@bachchor-tokyo.jp

苦悩から生命の躍動へ――大きな物語として

以下では、バッハの各作品が生まれる根拠となった教会暦の順に並べ替えてみます。物語の進行に沿っての理解ににつながります。

バッハ音楽の暦では、**カンタータ第 23 番**の時節（四旬節［今年は 3/5 から 4/17 までの、日曜を除いた 40 日間。来たる受難の時期に備える］の前の週のための作品）を通り抜け、いま・このときは、例年より遅めの復活祭（今年は 4/20 でした）を過ぎて、初夏の**カンタータ第 34 番**の時節（キリストの復活から 50 日後の「聖霊降臨祭」［同 6/8］のための作品）、さらに、毎年 7 月 2 日と固定された「マリアのエリサベト訪問の祝日」の**《マニフィカト》(マリアの讃歌)**へと至る、ドイツでも日本でも、最良の時期にあたります。

BWV 23 と BWV 34 のカンタータについては、月報紙上で（本年 1 月号、2 月号）ジョットの名画とともに触れました。残りの《マニフィカト》については、2023 年のクリスマス・シングインで抜粋演奏した際に、その上演に先駆けて、当月報紙上にもやや詳しいご紹介を載せましたので、ご参照ください。

→月報 2023 年 12 月号「聖母マリアの讃歌とキリスト降誕の物語音楽」
http://bachchor-tokyo.jp/monthly_newsletter/pdf/mon738_202312.pdf

次のページには、その《マニフィカト》について、外形的なデータを載せておきました。〈わが心 主をあがむ〉に始まる「マリアの讃歌」の各聖句（ルカ 47-55）が、どの声部と器楽編成によって、どんな色合い（調性）とテンポ（拍子）のなかで展開されるか一瞥してみてください。テクストの全体は、ラテン語原詞と上演用訳詞（大村恵美子訳）との対訳でご覧いただけます（http://ss964897.stars.ne.jp/bwv243.htm）。

たとえば、第 2 曲、3 曲の、いずれもマリアの心情を表わすソプラノが、前者では決然たる覚悟をもって（ニ長調、3/8）、後者では乙女のつつしみをもって（ロ短調、アダージョ・4/4）見事に描き分けられる、とい

月報 2025 年 5 月号 CONTENTS

・それでも出ていって木を植える（加藤 健）… p. 2-3
・「バッハ コラール・ハンドブック」新装版で復刊 …p. 3
・連載：退屈するのはいやそがしい［51］（大野博人）p. 4

った具合……。

ここでは、各曲の細かい内容に立ち入る余裕がありませんので、ステージ全体の大きなストーリーを描いてみたいと思います。

カンタータ第 23 番では、受難（十字架刑）の数週間前の、エルサレムへの途上でのこと、盲人の必死の叫び〈主なる神 ダビデの子、われを救いたまえや！〉を聞いてイエスは彼を、闇に閉ざされた苦悩から光の世界へと救った、とされます。その闇の深いこと、憐れみを乞う願いの激しいことが、曲全体をとおして雄弁に表されています。

この闇の深さをプログラムの中間において、冒頭と終曲の、爆発的な明るさと喜びとがくっきりと立ち上がることでしょう。開幕の曲、**カンタータ第 34 番**は、復活のキリストを天に送った後の弟子たちが集っていると、とつぜん激しい風が吹き、一同は聖霊に満たされた、という出来事を歌う。3 本のトランペットとティンパニに伴われての 16 分音符の躍動と疾走です。

第 23 番を挟んで、**《マニフィカト》**は、ふたたびトランペットとティンパニのある大編成に回帰します。「マリアの讃歌」は、古代・中世・近世をとおして歌い継がれてきた代表的な典礼歌ですが、こんなに迫力に満ちた音楽はバッハの他にあったでしょうか。とくにわれわれ日本人は、神への讃歌がエネルギーの塊であることに、驚かないではいられません。**＜編集部＞**

《マニフィカト わが心主をあがむ》(マリアの讃歌)
Magnificat D-Dur BWV243

［教会暦］マリアのエリサベト訪問の祝日、7 月 2 日・固定（他に BWV 147、10）
［使徒書］イザヤ 11 章 1-5 節（平和の王、エッサイの株から一つの芽が）
［福音書］ルカ 1 章 46-55 節（マリアの讃歌）
［成立］初演（おそらく）1733/7/2、ライプツィヒ
［歌詞］1-11 曲：ルカ 1, 46-55（ラテン語「マリアの讃歌」）
12 曲（終曲）：三位一体の小詠唱
［上演用訳詞］大村恵美子 http://ss964897.stars.ne.jp/bwv243.htm
［編成］独唱/合唱 SSATB、管（tp3, tm, fl2, ob2）、弦合奏、通奏低音

［楽曲構成］	原詞冒頭句/訳詞冒頭句	編成/調など
1. 合唱	Magnificat anima mea Dominum マニフィカト わが心 主を崇む	tp3, tm, fl2, ob2, str, bc ニ長調、3/4
2. アリア (S II)	Et exsultavit spiritus meus わが魂は 頌め讃(たと)う	str, bc ニ長調、3/8
3. アリア (S I)	Quia respexit humilitatem ancillae suae 主は 賤しき乙女をも顧みたもう	oba, bc アダージョ、ロ短調、4/4
4. 合唱	Omnes generationes ひとみな よろず世まで	fl2, ob2, str, bc 嬰ヘ短調、4/4
5. アリア (B)	Quia fecit mihi magna qui potens est 大いなるみ業 主は成したまえり	bc イ長調、4/4
6. 二重唱 (AT)	Et misericordia a progenie in progenies 主の憐れみは 代々にあまねく	fl2, str, bc ホ短調、12/8
7. 合唱	Fecit potentiam in bracchio suo 力充つる み腕をもて	tp3, tm, fl2, ob2, str, bc ト長調-ニ長調、4/4
8. アリア (T)	Deposuit potentes de sede 強き者を落とし	vn2, bc 嬰ヘ短調、3/4
9. アリア (A)	Esurientes implevit bonis 飢えたる者を満ち足らせ	fl2, bc ホ長調、4/4
10. 三重唱(SSA)	Suscepit Isurael puerum suum しもべイスラエルを救いたまえり	ob2, bc ロ短調、3/4
11. 合唱	Sicut locutus est ad Patres nostros むかし 世に告げたまいし如く	Bc ニ長調、2/2
12. 合唱	Gloria Patri グローリア 父に	tp3, tm, fl2, ob2, str, bc イ長調-ニ長調、4/4-3/4
		（演奏時間 30 分）

［上演履歴］1972(#27), 91(#70), 93(#74), 2002(#92), 2025(#123)予定
［日本語版楽譜］未刊

JICA エジプト駐在を終えて

それでも出ていって木を植える

加藤　健（国際協力機構 JICA 職員）

エジプトでの 3 年間の駐在を終えて、3 月初旬に日本に帰国しました。

2023 年 10 月 7 日、パレスチナのハマスとイスラエルの戦争が始まりました。エジプトは、ガザにもイスラエルにも国境を接し、戦後現在のイスラエルが建国されて以降でも、1973 年の第 4 次中東戦争まで 4 回もイスラエルとの戦争を経験してきました。従って、エジプト人は非常に敏感に今回の戦争に反応し、戦争体験のある高齢者はスエズ運河を超えてエジプトの重要都市がイスラエル空軍に爆撃された過去を想起しました。カイロの露店街のあちこちに連帯を示すパレスチナの旗が掲げられ、一般庶民は皆ガザの人々に同情し、イスラエルへの強い反感を抱く傾向がありました。

出エジプト記や申命記では、イスラエルの民が「うなじを固くする民」と表現されています。この戦争を通したイスラエルの頑なな姿勢は、それを想起させるものでした。周囲をアラブ諸国に囲まれているイスラエルは、国民全員が 18 歳になれば徴兵、除隊後原則 40 歳まで予備役として登録されており、いつでも自国を守るために徴兵される可能性があります。そういう環境に置かれれば、自国を守るために周辺国から攻撃されるリスクを極限まで減じておきたいという切実な考えがあるものと推察されます。

エジプトは、パレスチナともイスラエルともコミュニケーションチャネルを有する、ユニークで重要な立場にあります。現在の和平交渉においても、カタールとともに重要な仲介役の機能を果たしてきました。一方でエジプトはこれまで、パレスチナ、リビア、スーダン等周辺国より多数の難民を受け入れてきており、受入れ難民の数は 9 百万人に達するとしています。これ以上のガザからの難民流入の受入れの余地はなく、また、ガザからの避難民をひとたびシナイ半島で受け入れると、パレスチナの国家設立を含めた二国家解決実現の大義が瓦解するということで、エジプトはアラブ諸国とともに、ガザ域内の市民はガザ内に留まった形での復興アプローチを強く打ち出しています。

私の勤務する国際協力機構 JICA では、この戦争が始まって以降、人道面での様々な緊急支援を行ってきました。戦争が始まった直後の 2023 年 11 月、12 月、そして 2024 年 5 月と 3 回に亘り緊急支援物資をガザ域内にエジプト経由で届けました。

私はその 2 回目にガザとエジプトの国境に行き、人道物資支援の輸送状況の現場確認を行いました。その日は一時停戦の最終日、既にイスラエル空軍が空爆を数時間前に再開し、爆撃音がはっきり聞こえる中での現場確認となりました。

◆月報バックナンバーは，当団ＨＰからご覧いただけます．
http://bachchor-tokyo.jp/monthly_newsletter/index.htm

■ガザでの医療支援（写真：筆者提供．JICA プレスリリースより）

2024 年 5 月に JICA の 3 回目の物資支援がガザ域内に入った直後、ガザとエジプトの国境にあるラファハ検問所はイスラエル軍によって破壊され、同検問所を通じた人道物資輸送はその時から停止しました。以降、人道物資や支援人材のガザ入りは著しく制約を受けることとなりました。まさにガザ域内は兵站を絶たれた籠城戦のような形になったわけです。

ガザ域内には国際赤十字など 17 ほどの緊急医療チームが入って必死の医療支援を展開してきましたが、それぞれの医師が現場から発信する医療情報・医療支援ニーズを取り纏める機能は WHO が担い、JICA の国際緊急援助隊所属の医師はカイロや日本からの遠隔でこの WHO の体制整備を支援しました。フィリピン台風災害や日本の震災等で培った災害時の医療情報の集約・発信ノウハウがこうした局面に役立てられ、また、同じノウハウが国内の能登半島地震の際にも活かされ、日本の医療分野における緊急災害対応の知見が国内外相互に還流しながら、世界で集積・活用されています。

私が任期を終えて帰国する直前の 1 月に、ハマスとイスラエルの 42 日間の停戦が実現しました。今年 1 月 19 日には330 台に及ぶ人道物資輸送トラックがガザ域内への運搬を再開しました。人道物資輸送の大半を担うエジプト赤心月社に対して JICA は複数台のフォークリフトを支援し、その輸送能力強化をサポートしています。

「堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄ではないことを知っているのですから。」（コリント人への第一の手紙 15：58）

この聖句は、私がこうした開発援助の現場にいるときにいつも心に留めている聖句です。目の前での私たちの活動は小さなブロックを積み上げるようなもので、砂に水を撒くように思える時も度々あります。また、今回の戦争の場合には、その向かう先にどのような解決がありうるのかも、容易には想像がつきません。トランプ政権の誕生がどのように作用するのかも注視する必要があります。

エジプト駐在中、毎朝の徒歩通勤の折には、ヨハネの黙示録の聖書講解を聴くことができました。また、社会人のクリスチャン仲間をオンラインで繋いで、N. T. ライトの「驚くべき希望」を通読して、「御国の建設のために働く」ということに思いを巡らせてきました。「御国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈り、将来のキリストの再臨、そして御国の建設に希望をもつ。そして、日々の私たち一人一人の労苦がどのように活かされるかは想像もつかないけれど「主にあって無駄ではない」ということを知っていることは、日々の小さな歩みの中で大いに励まされることだと思っています。そうした希望を胸に抱いて、マルティン・ルターの言う「それでも出て行って木を植える」という心持ちで、主にあって歩みを続けてまいりたいと思います。

（筆者は、団員・加藤剛男氏のご長男）

ガブさん（ガブリエルさん）のこと：

先月号の記事（遊馬栄様「ストラスブール便り――頼もしいフランス人」）中の編集部注について、「ガブさんは帰国したのではなく、2007 年に愛した日本の地でお亡くなりになりました」との、筆者ご本人よりのメールを頂きました。ご報告します。

＜新装版で復刊＞

バッハ コラール・ハンドブック

大村恵美子・大村健二［編］
2025 年 4 月、春秋社［刊］
（A5 版、400 ページ、本体 4200 円）

「日本語とドイツ語で歌って味わうコラールの世界。教会カンタータ、モテット、受難曲、オラトリオ等、バッハの宗教合唱曲に登場するコラールの歌詞（ドイツ語/日本語）と楽譜、全 154 曲を網羅。大作曲家の創造の源泉ともいうべき会衆歌の宝庫」

―新装版の帯より―

◆上演用歌詞対訳は，当団ＨＰからご覧いただけます．
http://bachchor-tokyo.jp/japanese_words/index.htm

＜連載随想＞

退屈するのはいそがしい［51］

ご先祖ってだれ？

安曇野閑人　**大野 博人**

ご先祖様ってだれだろう。

先日、近くの松本市で小さな集まりがあった。お墓の文化に詳しい社会学者から話を聴く会だった。

――日本のお墓には、亡くなった人だけでなく、それより前のご先祖さまたちも祀られている。個人をしのぶ西洋のお墓とはちょっと異なる。日本では先祖代々のお墓を守るという習慣も長く続いてきた。けれど最近は個人をしのぶという色合いが強まっている。お墓のデザインにもそれは現れている。

そんな講演のあと、参加者たちが感想や自分の体験を語り合った。最近増えている墓仕舞いや永代供養の話をした人もいた。

私は自分の先祖について思いをめぐらせたことがあまりなかった。別に先祖に恨みはない。とくに気にしてこなかっただけだ。父方の祖父母は愛媛県、母方の祖父母は兵庫県の出身だけれど、それより前となるとほとんど何も知らない。何をしていたのか、どこから来たのか……。

だけど、知ろうとしなかったことには理由がある。さらにもっとずっと前の先祖のことなら、もうわかっていると思うからだ。

人類学の研究によると、私たちホモ・サピエンスが地球上にはじめて登場したのは､約 30 万年前のアフリカ。つまり､私のご先祖様はアフリカ人なのだ。まあ、私だけではないけれど。

東京に所用で出かけたら、たまたま国立科学博物館で「古代ＤＮＡ―日本人のきた道」という特別展が開催されていたので、のぞいてみた。それによると、長くアフリカにとどまっていた祖先がそこから外に移動を始めたのが 6 万年ほど前。その一部が日本にまでたどり着いたのが約 4 万年前。南からも北からも来たらしい。そのことが最新の研究成果で示されていておもしろかった。

たしかに祖父母より前の代については茫漠としている。けれど、途中はすっ飛ばすことになっても、とにかく最初のご先祖様の出身地ははっきりしているのだ。なんだか自分が由緒正しい家系の末裔のような気がしてきた。

英国生まれの歴史家､ニアール･ファーガソンの「文明」という本によると、これまで地球上に生存した人類全体の中で、今生きている私たちの割合は約 7 %だそうだ。つまり、すべての人間のうち死者が 93%で生者が 7%。30 万年というホモ・サピエンスの歴史から考えると、生者が意外と多い。

いずれにしろ、アフリカの祖先以来、なんだかんだ交じり合いつつその遺伝子が私に伝わっている。そう考えれば、代々の先祖というのは、今は亡き 93%ということになる。最近のＤＮＡ解析によると、私たちとは別の人類ですでに絶滅しているといわれるネアンデルタール人とも、ホモ・サピエンスは交雑していたことが明らかになっているという。ひょっとすると、私は少しだけネアンデルタール人の子孫でもあるかもしれない。わくわくする。

■琉球列島で発見された約二万六千年ほど前の骨から復元した「ご先祖」の顔。国立科学博物館の「古代ＤＮＡ」展の図録から（写真提供と説明：筆者）

気の遠くなるほど長い人類の歴史で、文献として記録されて残っているのは直近のわずか 2%ほど。家系や家柄などといったところで、わかっているのは、どんなにたどってみてもその程度だ。一人一人の源流はもっと遙か彼方にさかのぼる。

お墓の話に耳を傾けながら、こんな風に好き勝手に想像をふくらませていると、会に参加していた年配の男性がこんな話を始めた。

「私は無神論者です。宗教や神は一切信じません。まあ、もし神がいるとすれば、それは自然法則だと思っています」

大学で宇宙物理学の教授だったそうだ。

「私が死んだときにお墓をどうしてほしいという注文は何もない。残った家族たちの気持ち次第で、好きにしてもらってもかまわない」ときっぱり。

そしてこう付け加えた。

「私が死んだらどうなるか｡素粒子とエネルギーにもどる。それだけ」

私たちの体も心も結局は構成していた物質に還っていくだけというわけだ。

言われてみれば、30 万年前のホモ・サピエンス登場の前にも自分の源流はさかのぼる。動物から微生物、有機物へ。そこからさらに原子に。

ご先祖様は、138 億年前のビッグバンに登場した粒子にまで行き着く。

先祖代々という発想が、ずいぶん窮屈な気がしてきた。

（団友・後援会員、元朝日新聞記者）